

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>作物栽培の基本と実践力を身につけ、栽培技術が習得でき、生産と流通、地域性、消費、についての理解が深まる様努めた。</p> <p>実習授業では、物事を思考し判断する能力と実行・実践する技術力が備わること为目标にしている。授業の中で、その基礎を学び、自らが考え行動し応用力を培うことが将来へつながる道であると考えている。そのためには何事に対しても「何故」という疑問を持ち、問題点を探り当て、解決方法を実行に移すことが必要である事に重点を置き、作物を観察する目を磨き、作物を育てることの体験、収穫の際の満足感とおし農業のすばらしさを伝えていく方針で進めているが、学生の中には、関心の薄い学生も散見される。興味を持つことが出来る授業を心掛けたい。</p> <p>座学では、実践に必要な知識・技術について習得し、自ら考えることができる能力が身につくよう努め、全ての学生に満足行く授業できるよう進めている。</p>																				
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>講義については、興味がわくように配布プリントや板書を工夫し、ppt等も使用した。また、小テストを実施し、知識習得の再確認を行っている。</p> <p>野菜実習の班分けについても興味のある作物を中心に学生に分担させ、積極的に作業ができるように工夫し、市場視察や試験場視察などを取り入れている。</p> <p>また、北海道新顔作物や栽培の少ない作物などを取り入れて、初めて取り組む栽培への応用力、地域に合わせた特産振興にも取り組む力が身につくよう進めた。</p>																				
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>教科書の内容をより良く理解できるよう、写真や動画、図表などをパワーポイントを映写し授業を進めた。図解や後の復習に必要と思われるものは、必要に応じプリントを配布し使用した。小テストを実施し、知識習得の再確認を行っている。</p>																				
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>2022年度～</td> <td>果樹研究会顧問</td> </tr> <tr> <td>2022年度～</td> <td>ドローンサッカー部顧問</td> </tr> <tr> <td>2022年度～</td> <td>学生広報ぶれたく顧問</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>	2022年度～	果樹研究会顧問	2022年度～	ドローンサッカー部顧問	2022年度～	学生広報ぶれたく顧問														
2022年度～	果樹研究会顧問																				
2022年度～	ドローンサッカー部顧問																				
2022年度～	学生広報ぶれたく顧問																				
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<table border="1"> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>																				
研 究 業 績																					
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>北海道で研究実績のないラッカセイの酸度の違いがラッカセイの生育・子実にあたる影響については、酸性調整が適切にできず継続試験が必要だが、子実に対する影響について成果が得られた。本試験は札幌農学校、八紘学園、和寒農業活性化センターと連携試験を実施出来たことは大きい。</p> <p>北海道新顔野菜のラッカセイ、サツマイモに関しては栽培法、貯蔵法の技術確立から栽培の拡大に努める。</p> <p>ペボカボチャ(食用種子)における種子の薄皮除去法では、北海道農業研究センターの嘉見氏の研究を引継ぎ、生産者が実戦出来る方法の確立に務める。</p>																				
<p>2 研究課題(今後の展開・可能性を含む)</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>生産者からのニーズも有るヒヨコマメの露地栽培方法では、早生品種の活用、雨避けに着目し露地栽培法への影響を継続して行い、露地栽培実現を目指す。</p> <p>作物のNi過剰障害対策を目指す。</p>																				

3 研究助成等 (主要 5 件程度)	(1) 文部科学省科学研究費				
	(2) 学内				
	(3) 学外				
4 資格・特許等 (主要 3 件以内)	小型ボイラー取扱				
	普通第 1 種圧力容器取扱				
	食品衛生管理者				
著書、学術論文、作品等の名称 (主要 15 件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約	
露地立茎アスパラガスにおける個体別収量に関する一考察	共	2005 年 2 月	北海道園芸談話会報 第 38 号	露地立茎栽培下でのプラグ苗、大苗定植、品種別の収量予測	
ペポカボチャ「ストライプペポ」による地域振興	共	2021 年 10 月	北農第 88 巻 4 号	生産・加工の販売促進体制（産学官連携）について、栽培方法の確立、種子の加工、販売、需要や販路拡大への取組。	
土壌 pH の違いがラッカセイ（ <i>Arachis hypogaea</i> L.）の生育・収量及びカルシウム含有率に及ぼす影響	共	2023 年 3 月	北海道拓殖大学北海道短期大学紀要 第 3 号	土壌 pH を pH3.1～6.8 で栽培し、生育、莢数、子実影響をして影響を調査した。pH3 程度では枯死したが、6.0～6.8 の範囲での影響は判然としなかった。カルシウム含有率は子実よりも莢（殻）で明らかに高かった。	
北海道におけるラッカセイ（ <i>Arachis hypogaea</i> L.）の播種時期、生育・収量に及ぼす影響	共	2023 年 3 月	北海道拓殖大学北海道短期大学紀要 第 3 号	5 月中旬から 6 月上旬の間に播種期を設け生育・収量に及ぼす影響を検討した。真夏日の増加と降水量の減少が総莢数と正莢内の正粒割合の低下に影響している可能性を指摘した。	
キャベツの S-メチルメチオニンスルホニウム含有量に対する雪中貯蔵の影響	共	2023 年 8 月	公益社団法人 日本食品化学工学会 第 70 回記念大会	雪中貯蔵において、根が切られた状態の雪中キャベツでは、その栄養成分が緩やかに減少すると想定されたが、アミノ酸代謝と GSL 生成に関して様々な環境要因に対する代謝的応答が存在する可能性が示唆された	
2023 年気象がラッカセイの発芽および子実の充実におよぼした影響の一考察	共	2023 年 12 月	日本育種学会・日本作物学会 北海道談話会会報		
さつまいも活着率に及ぼす苗質・土壌水分・マルチ色の影響についての一考察	共	2024 年 3 月	北海道園芸談話会報 第 57 号	定植時の土壌水分やマルチに接したところから葉や茎が焼けて枯れる症状を再現し、安定収穫に向け調査した。	
キャベツのグルコシノレートと抗菌活性に対する雪中貯蔵の影響	共	2024 年 5 月	第 78 回日本栄養・食糧学会大会	雪中貯蔵したキャベツにおいて、SMM や遊離アミノ酸含有量が単純に漸減するのではなく、有意な増加が認められるなど、アミノ酸代謝が制御されていること、また含硫アミノ酸誘導体であるグルコシノレートの代謝にも関与することが示唆された	
研究業績（過去 3 カ年分）				国際的活動の有無	社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他		
0	6	0	0	無	無
学 内 運 営 業 績					
1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度)	2022 年度		入試・広報委員会		
	2022 年度		学生、地域国際交流委員会		
	2023 年度～		広報委員会		
	2024 年度～		学生募集 PT		

学 外 活 動 業 績		
1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通じた活動 （主要 10 件程度）	2018 年 8 月	土づくり現地研修会（北海道農業協同組合中央会）講師
	2023 年 4 月～	和寒町農業活性化センター運営協議会アドバイザー
	2023 年 4 月	深川市市民講座講師
	2024 年 2 月	深川市新規就農者集中講座講師
	2024 年 4 月～	北海道ラッカセイ懇話会幹事
2 学会・学術団体等の活動 （主要 10 件程度）	2021 年～	日本土壌肥料学会
	2021 年～	北海道園芸研究談話会
	2021 年～	公益財団法人北農会
	2022 年～	日本作物学会北海道懇話会
	2022 年～	北海道養液栽培研究会
	2022 年～	北海道さつまいも懇話会